

大阪・住吉市民病院の廃止・再編

説明会で疑問・批判



疑問や意見が続出した説明会。25日、大阪市住之江区

現地建て替えこそ■医師3人で分娩600件とは

大阪市立住吉市民病院廃止に伴う病院再編計画について大阪市と大阪府は25日、住之江区民ホールで説明会を開き、200人近い市民が参加しました。

再編計画は住吉市民病院を廃止し、府市共同住吉母子医療センターと、市が市民病院跡地に誘致する医療法人三宝会(南港病院)に再編するものです。小児・新生児科が22床減少し、南港病院は医師3人で年間600〜700件の分娩(ぶんべん) 〓医師1人当たり全国平均の倍)を予定しています。市南部保健医療圏の各医師会長の反対や府医療審議会での

反対多数、7万人の反対署名を押し切って厚生労働省に計画が申請され、同意されました。会議は、疑問や意見が続出。多くの発言希望者を残したまま予定の閉会時間を理由に終了しました。

質疑では、「私たちの要望の原点は現地建て替えだ。計画の内容は要望とかけ離れている。再検討を」3人の医師で600件以上の分娩が本当にできるのか」の意見に、市は「2018年3月に廃止する。空白をつくってほならない」とし、分娩件数は「南港病院採用予定の医師が可能としている」と述べました。

医師会の反対について市は「見解の相違。医師会は地元中心に考えておられるようだがわれわれは南部医療圏

で考えている」と説明。市民から「行政が見解の相違を言うべきではない。医師会は地域医療を守る立場で危ぐさ

れている」と批判の声があがりました。説明会が周知徹底されていないことにも批判が集中しました。